

## 平成30年度第1回草津市健幸都市づくり推進委員会議事録

日 時： 平成30年8月22日（水） 13時30分～15時20分

場 所： 草津市役所4階行政委員会室

出席委員： 小沢委員、塚口委員、三浦委員、河前委員、則武委員、  
河副委員、喜田委員、小泉委員、関川委員、中野委員、  
吉川委員、荒木委員

欠席委員： 藤田委員、梅木委員、橋口委員、北村委員、黒川委員、  
小枝委員、廣田委員、北島委員

事務局： 山本副市長、

【健康福祉部】西部長、溝口理事、小川副部長、

【環境経済部】松下部長 【都市計画部】山本部長

【健康福祉政策課】川那邊課長、田村係長、井上主任

傍聴者： 1名

### 1. 開会

---

#### 【副市長】

みなさまこんにちは。平成30年度第1回草津市健幸都市づくり推進委員会を開催するにあたりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

本市では28年8月に健幸都市宣言を行い、29年3月に基本計画を策定しました。現在、計画に基づき事業に取り組んでおりますが、本日は平成29年度の取組実績平成30年度の取組内容についてご説明する予定です。

今年の4月、厚生労働省が平成27年全国市町村別の生命表、いわゆる平均寿命の発表がありました。全国の1888の市町村の状況でございます。本市では、男性の平均寿命が82.6歳であり、全国第5位です。女性は87.9歳で上位50位の市町が88.0歳であることから順位は発表されていませんが、50～100位の間の限りなく50位に近い状況にあります。いずれも全国平均を上回っております。これは従前から市民の皆様が主体となって取り組んでいただいている運動の一定の成果であると考えております。今後も平成29年3月に策定した草津市健幸都市基本計画に基づき、健幸都市に向けた取り組みを順次市民の皆様をはじめ、大学、企業、団体の皆様と共に進めてまいりたいと考えておりますので、皆様方におかれましても、今後とも益々のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。本日は会議の中で忌憚ないご意見を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。

**【事務局】**

＜草津市市民参加施行条例に基づき、傍聴者について報告＞

＜草津市附属機関運営規則に基づき、委員会が成立していることを報告＞

**2 議事**

---

1) 草津市健幸都市基本計画の平成29年度の実績および平成30年度以降の取組について

**【事務局】**

《まちの健幸づくりについて資料1・2に基づき説明》

**【主な質疑・意見】**

**【委員長】**

まず、まちの健幸づくりのところの平成29年度の実績や課題、平成30年度の進捗などもお話しいただいた。詳しいところは資料1の参考資料に書かれている。

**【委員】**

いろいろな施策が展開されており、順調に進められていると思うが、資料2で言うと若干、29年度の評価が当初のものよりもやや下回っている。何か思い当たる原因はあるか。

**【事務局】**

公共交通の利便性に満足している市民の割合の増加というところについては、3ポイント程度減少している。市民意識調査の取り方にもよるが、第5次草津市総合計画の取組に対する市民意識を確認し、市政運営の参考とすることを目的としている。調査対象が市民およそ13万人の中の3,000人を対象にしており、選定方法については18歳以上の者で年齢と居住地域の2段階の層化無作為抽出で行っている。少なくともはなっているものの、許容範囲の誤差であると考えているところである。また、市内の文化・体育交流施設の利用者数の増加については、27年度で172万人となっており、この年は野村グラウンドで農業まつりとイナズマフードフェスの大型のイベントが2つあったが、平成28年度は野村グラウンドが施設の建替えを開始し、利用できない状況になったため、30万人程度減少した。

**【委員長】**

市民意識調査の概要は資料2の裏に参考として記載されている。これは3,000人が対象であるが、回答率が26パーセントということで低い。回収率があまりよくないので実態

かどうかわかりにくい。回収率を上げる努力をしないといけない。評価するのはなかなか厳しいが、調査の仕方を今後考えていかなければならないと思う。

**【委員】**

毎朝駅まで散歩をしているが、駅に行くにしたがって整備されている。目立つ場所だけを整備して、駅から少し離れたところは全くされていない。市外から来られる方などが目に付く駅周辺の見栄えが良いところだけを整備するような印象を受けるので、改善をお願いしたい。

**【委員長】**

バリアフリーやまちづくりについてどうか。計画としては駅に近い方から優先してやっていく感じなのか。

**【事務局】**

バリアフリー基本構想は1期目を行っているが、草津駅、南草津駅から1キロ圏内で場所を決めて集中的に行っている段階である。それが進むと円を広げていき、市内全域をバリアフリー化できればよいと考えながら事業を進めている。市の事業だけでなく民間も含めた各管理者にバリアフリー化を進める工事をしていただいている。非常に時間はかかるが、順次進めていきたいと考えている。

**【委員長】**

駅に近いほど利用者も多く、優先順位をつけてされている。資料の6ページの資料1の参考資料にコンパクトシティについてあるが、計画策定をしていくというところでパブリックコメントを実施しているのか。10月に公表する予定か。そのあたりの進捗状況をお伺いしたい。

**【事務局】**

コンパクトシティネットワークのまちづくりに向けてということで、立地適正化計画と地域再生計画、地域公共交通網形成計画の3つを関連する計画ということで昨年度から策定を進めているところである。昨年度末にはまとめたかったが、地元と調整しながらこの計画を策定した関係で、今年度までずれ込んだ。今年に入り7月15日から8月14日までパブリックコメントを実施した。また、住民説明会、市民説明会等を実施して幅広く意見を聞いているところである。これを9月末までに意見をお聞きした中でまとめ、10月からの公表という流れで現在進めているところである。

**【委員長】**

地元との調整のポイントや、どんな問題が盛り込まれている計画なのか教えていただきたい。

#### 【事務局】

まず、立地適正化計画については市街化区域が中心で、将来草津市も人口減少局面を2040年度以降迎えていく、その先を見越して居住誘導区域を定めていこうという内容になっている。市民全体が対象となっており、市民説明会等を開きご理解いただいているところである。地域再生計画については、市街化調整区域を対象に計画している。立地適正化計画で市街化区域に人を集め、市街化調整区域はほったらかしにするのではなく、市街化調整区域についてもコンパクトシティプラスネットワークの中の核としてまちづくりをしていくということで、7小学校区と調整しながら将来のまちづくりに向けた取組を検討している。今後も引き続き各学区で課題等が異なるので、学区ごとにプランを策定し、まちづくりを20年程度かけて実行していこうということで、あと2、3年かかると思うが、各学区のプラン作りを進めているところである。市街化調整区域の学区ごとのものと中心市街地を結ぶ交通体系を地域公共交通網形成計画で作上げていこうということで、大筋のところを3計画でまとめている。詳細は今後も引き続き地元と調整しながら進めていく。

#### 【委員】

立地適正化計画は、現時点で人口増加傾向にある草津市においては若干当てはまりにくい計画でもある。ただ将来人口減少局面に入ることは見通せるので立地適正化について検討していこうということである。国の枠組みからは少し大津湖南地域において当てはまりにくいところがあるが、そこを市としては努力されている。地域再生計画についても、「草津市版」地域再生計画という枕詞がついていることから、地域再生計画そのものであると、人口減少が激しいなど、近々の課題となっているところに効力を発揮するものだと思うが、立地適正化計画という市街化区域内だけの施策に収集されると市街化調整区域の住民の方がどう考えられるかが心配であるので、地域再生計画で草津市の実状を念頭におきながら、修正しながら適切なものにしていくような取組をされている。3つの計画を組み合わせる形で将来のまちづくりを推進していこうと考えられている。国の制度をうまく使いながらより草津市に合った方向に展開されているのだと理解している。

#### 【委員長】

高齢化に向けた、高齢者が暮らしやすいまちづくりをしていくところが重要な点であると思う。まちづくりなので1年2年でできるものではなく、10年20年かけてやっていくことだと思う。健幸都市では大事な部分であるので進めていただきたい。

#### 【委員】

市民総合交流センターに加わっている構成組織はどのようになっているのか。また、個人的にガーデニングが好きだが、ガーデニングのサークルをどのように活性化させようとしているのかも伺いたい。

**【事務局】**

資料7ページにある市民総合交流センターについて、草津駅周辺に限定しているが公共施設が散在している。公共施設等総合管理計画に基づき1か所に統合していこうとしているのが一つの狙いである。また、交流センターをまちの核として賑わいの創出をしようと考えている。ここにはまちづくりセンター、人権センター、商工会議所や医師会、薬剤師会、歯科医師会の3師会を持ってこようと考えている。民間施設も入っていただく予定をしている。子育て支援をしていける施策展開をこの場所でもしていこうと考えている。

2つ目のガーデニングについては、草津市の緑化基本計画の中で、ガーデンシティに向けた取組をしようということ、現在計画を立てている。緑に親しんでいただいて健幸なまちを目指そうというものである。具体的な施策については現在検討中であるが、今おっしゃったように既存の団体があるので、その団体でより一層活動を活発にさせていただけるような施策展開、また、新たな活動団体を生むような施策を市として計画の中で導き出していこうということ、計画策定をしている。

**【事務局】**

《ひとの健幸づくり、しごとの健幸づくりについて、資料1・2に基づき説明》

**【委員】**

ひとの健幸づくりについて、くさつ健幸ポイント制度のところ、BIWA-TEKUがあるが、夏頃にどのような景品がもらえるのかかわかるという話が出ていたと思うが、進捗状況はどうか。

**【事務局】**

8月中旬にホームページ等に景品をアップできるように担当課、各市町で取り組んでいるところである。景品は、なるべく民間企業へ賛同を呼びかけ、提供いただいている。

**【委員】**

喫煙区域の表示が、誰もがわかる表示ではない。誰もが認識できるような標識を作るべきではないか。

**【委員長】**

大津市は歩道の地面に印刷されているようになっているが、草津市はそういったものは

ないのか。まちづくりの中で検討いただきたい。

#### 【委員】

「まちの健幸」の中のガーデニングについて、草木の管理などの手入れや水やり、伐採が必要な場合は市の担当部署に報告すればよいが、先般、依頼をした際に待つてほしいと言われた。「健幸」だと思えるのは手入れがされているからこそなので、迅速な対応をお願いしたい。また、玉川学区の場合、イベントの際にごみ箱を用意せず、出たごみは全て持ち帰るようにしている。住んでいるまちを自分たちできれいにし、住みやすいまちの形成をしていくために、ごみを持ち帰るということも大切だと思う。

「ひとの健幸」の関係では、高齢者の社会参加率が上がっており、南草津界限では元気な高齢者の方が多い。出てこられる方とそうでない方があるかもしれないが、チャンスやきっかけを与えれば、生きがいをもち充実した日々を送っていただけるのではないかと。居場所や出番を考え、有益に活用をしていただければよいのではないかと。思う。

「しごとの健幸」の関係では、8月から町内で、北山田、下笠界限でたくさんとれた野菜を南草津界限で安く販売するという活動をしている。喜んで来られる方も多。特産を活かした健幸づくりに貢献できればと思う。

#### 【事務局】

きれいな環境を作っていく裏には、草木の管理等、地道な部分もある。今日いただいたご意見を参考にしたい。高齢者の社会参加について手元にパンフレットをお配りしているが、作って終わりではなく、元気な方が多い中でチャンスやきっかけ、生きがいづくりという言葉でマッチングできるような、参加いただける取組を考えていかなければならないと思っている。地産地消に関しても、ご意見を参考に組み組んでいきたいと考えている。

#### 【委員】

草津市健康推進連絡協議会は今年の2月に健幸宣言をさせていただいた。今まで企業だけが宣言をすと思込でいた。しかし、内容を見ると自分たち健康推進員の活動にも通じる部分があり、企業でない団体でもできるのではないかと。思った。

健康推進員は「くさつ健康はつらつ体操」を普及しているが、それとは別に「たび丸体操」がある。たび丸がいなくても健康推進員が催しの際に、はつらつ体操と一緒にできればよいと思、運動関係の委員と練習しようという話になっている。今はパソコンからしか見ることができず、DVDやCDなどを出していただくと広めていきやすい。

#### 【委員】

4つ提案させていただく。1つ目は健幸都市づくりのホームページを作っていただきたい。2つ目は広報くさつで専用ページを作っていただきたい。例えば栗東市では専用の保存

版を広報に入れ込んだりしている。3つ目がいろいろな施策があるが、絞り込んで進めてみてはどうか。4つ目は健幸都市のPRで陸橋の横断幕を設置してほしい。看板や登り旗も検討いただきたい。

#### 【委員長】

周知、広報については毎回話に出ている。資料2の健幸なまちだと思ふ人の割合について、上げるのはなかなか難しいが、まずは「知っていますか」という質問を入れなければならない。まず認知しているかどうかを今後調査に入れていき、割合を見ていくとよいと思う。今いろいろな意見が出たが、まだやっていない対策などもあるので、やっていかないと割合が上がってこないと思う。

#### 【委員】

最後の話とほぼ同じだが全体目標で、5年で20パーセント上げるというのは1年に4～5パーセント上げなければならないので、具体的な取組で数字を1パーセント上げるなど意識を持って取り組んでいく方がいいのではないかと思います。

#### 【委員】

しごとの健幸づくりについて、驚いたのは草津市が野菜の摂取量が少ないということで、他の数値は良いのに野菜に関しては悪いのが印象的だった。草津でも学校給食では地産地消のイメージが非常に強く、色濃く出していただきながら子どもたちには地域の野菜をしっかり食べていただけるような取組をされていると思う。草津ブランドについては、草津市にこのような野菜があるのでみんなで食しましょうということと、生産物を作っていたらいる農業者の付加価値を上げていくという2つの部分がある。啓発やPRを一生懸命やっていたらいて、これだけ増えたという数値がわかれば、やってきたことに甲斐があるのではと思った。出発点と現在の野菜の摂取量がこれだけ増えているということがわかれば甲斐があるのではないかと思います。

#### 【委員長】

今の話に関連して、全体的に今日報告いただいた実績や評価に数字が足りないと感じている。できるだけ数値を取れるところは数値で評価、実績を報告していただいてPDCAサイクルを回す。できるだけ数字で出していただいて、委員の皆様がどのぐらい進捗しているか確認できるようにしていただきたい。

#### 【委員】

健康福祉部で地区担当保健師を配置されたり、学区単位で地域のリーダー会議をやっておられて、地域での取組を重点的にやっていただいていると認識している。参考資料にも住

民啓発が入っており、先ほどのBIWA-TEKUでもそうだが、個人で頑張るよりもグループで頑張っていくことが必要だと思う。個人にインセンティブを与えるだけでなく、グループ単位でもインセンティブを与えるというようなことであればより張り合いが出るのではないかと思う。1人でやるよりも3人でやる方が長続きするというデータもある。住民啓発についても県が大々的に年に数回大きな大会を開いてもそう効果がない。地域でのこまめな啓発が大事で、各学区の健康推進員も含め、啓発していったらいいのではないか。計画には地域活動等ポイントシステムというものもあり、高齢者の方が地域活動されることを想定しているのではないかと思う。こういったことも利用して、学区単位、自治会単位、地域での動きを推進していただければと思う。

### 3 その他

#### 1) 草津市健幸都市づくり推進チームについて

##### 【事務局】

≪資料3に基づき説明≫

##### 【委員長】

市役所の若手の職員がいろいろな部署から集まって作られている。健幸都市づくりのためにぜひ頑張って知恵を絞っていただきたい。

### 4. 閉会

---